

鎌倉市教育委員会 令和8年2月定例会会議録

○日時 令和8年(2026年)2月2日(月)
10時30分開会 11時4分閉会

○場所 鎌倉商工会議所 101会議室

○出席委員 高橋教育長、下平委員、朝比奈委員、林委員

○傍聴者 1人

○本日審議を行った案件

日程1 議案第24号

鎌倉市指定文化財の指定及び解除について

日程2 報告事項

(1) 課長等報告

行事予定

(令和8年(2026年)2月2日～令和8年(2026年)3月31日)

(2) その他報告

高橋教育長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより2月定例会を開会する。本日の会議録署名委員は下平委員に依頼する。本日の議事日程は手元に配付したとおりである。それでは日程に従い議事を進める。

1 議案第24号 鎌倉市指定文化財の指定及び解除について

高橋教育長

日程の1、議案第24号に入る。「鎌倉市指定文化財の指定及び解除について」議案の説明を願いたい。

教育文化財部次長兼文化財課長

議案集は1ページ、及び別紙の指定物件名簿及び指定理由書を参照願いたい。今回の指定物件は2件、解除物件は1件である。

まず、指定物件の1件目は、絵画「絹本(けんぽん)著色(ちゃくしよく) 授戒(じゅかい)三聖図(さんしょうず) (伝(でん)廬舎那仏像(るしゃなぶつぞう)) 一幅(いっぷく)」である。所有者は宝戒寺、製作

年代は、南北朝時代から室町時代の14世紀から15世紀である。本作は、市内の小町に所在する、天台宗の宝戒寺に伝来した仏画で、大きさは縦1m3cm5mm、横53cm4mmである。

この絵は、画面中央に蓮華座に座る釈迦如来を、画面下方には椅子に座る二人の僧侶を、画面上部には雲や礼盤に載った宝珠を描いている。本作には各所に複数の後世の補筆が確認できるものの、全体的に中世、室町時代の趣をとどめている。また、描かれている絹の織りはやや粗目ではあるため、裏側から塗られた色により画面に明るさをもたらしており、また表の釈迦の着衣には金が用いられるなど、丁寧な描きぶりとなっている。

この宝戒寺の授戒三聖図と類似する絵画が、滋賀県の天台宗寺院である西教寺に複数幅伝来しており、それらは「授戒三聖図」あるいは「戒壇釈迦図」の名で伝わり、「重授戒灌頂」という、西教寺での重要な儀礼において、本尊として用いられたことが知られている。

宝戒寺に伝わる本作は、寺伝では「廬舎那仏像」として伝えられてきたが、西教寺に伝わる図と等しい図像を示していることから、「授戒三聖図」とみなすことができる。戒律を授ける、受ける「授戒」という僧侶にとって最も重要な儀式で用いる絵画が、鎌倉の受戒道場であった宝戒寺に伝わっていることは、重要な意味を持っていると言える。

宝戒寺は鎌倉では数少ない天台宗の寺院であり、宝戒寺に伝わる文書によれば、同じく天台宗の西教寺で行われていたように、儀礼の際の本尊として用いられた可能性は高いと考えられる。中世の鎌倉地域と近畿地方の天台宗寺院との関係性について新発見が見出されることが期待される重要な絵画であり、鎌倉市指定有形文化財に指定するものである。

2件目は、歴史資料「鎌府勝景(けんぷしょうけい)一卷」である。所有者は鎌倉市、年代は江戸時代である。本件は、現在鎌倉市中央図書館が所蔵している、26枚の紙を貼り継いだ巻物で、大きさは本紙のみで縦26cm5mm、長さ13m5cmある。全部で21カ所の図が描かれ、うち12図が鎌倉市内の名所を描いている。本資料は、江戸幕府の役人の海老原利啓(としひろ)が、鎌倉とその近郊の社寺や名所を写生してまとめた巻物である。巻末にはこの資料の来歴が記されており、海老原利啓が文政10年(1827年)に鶴岡八幡宮再建のために鎌倉を訪れ、その仕事の合間を使って約1年かけて写生し、後に清書・彩色して一卷にまとめ「鎌府勝景」と名付けたことがわかる。文政11年(1828年)の文書にも、幕府の役人の一人として「海老原孫三郎」の名が確認され、侍身分である人物が描いたことが明らかな点でも貴重な資料である。

また、鳥瞰的な視点を取りつつ写実的で、建物や山林の様子、人物まで細かく描いており、風俗画として、また、当時の景観を伺える資料としての価値が高いと言える。特に鶴岡八幡宮の再建直後の様子や、建長寺・円覚寺の山門を建立した頃の様子、光明寺の再建前の風景など、江戸時代後期から幕末期の鎌倉復興と景観の状況を具体的に伝える貴重な資料であることから、鎌倉市指定有形文化財に指定するものである。

次に、解除予定物件について説明を行う。14ページの指定解除についての資料を参照願いたい。

指定解除するのは、書跡「紙本墨書 中巖圓月(ちゅうがんえんげつ) 墨跡 一幅」である。所有者は公益財団法人 常盤山文庫である。本件、中巖圓月墨跡は、平成8年(1996年)10月18日に鎌倉市指定有形文化財に指定された書跡である。令和7年(2025年)7月に、文化庁から県教育委員会に対して、所有者である公益財団法人常盤山文庫の所在場所が、鎌倉市から東京都に変更となった旨の通知があり、これを受けて、常盤山文庫に確認したところ、本文化財を現在も所有しており、所在地が鎌倉市から東京

都へ変更となったことを確認した。このことから、本市文化財保護条例第 11 条第 1 項に規定する「市内に存する有形文化財」の要件を満たさなくなったことから、指定を解除するものである。

以上 2 件の指定及び 1 件の解除については、令和 7 年（2025 年）12 月 12 日開催の令和 7 年度第 2 回鎌倉市文化財専門委員会において諮問し、専門委員の調査等を経て、令和 8 年（2026 年）1 月 22 日開催の第 3 回鎌倉市文化財専門委員会において、それぞれ指定及び解除が適当との答申を受けたものである。

今回の 2 件の指定及び 1 件の解除となると、鎌倉市指定文化財の件数は、332 件となる。また、国宝の 13 件、国の重要文化財等 176 件、県の重要文化財 64 件とあわせ、市内の指定文化財の件数は合計 585 件となる。

なお、本件については本委員会での議決の後、速やかに指定及び解除告示を行い、鎌倉市議会 2 月定例会、教育福祉常任委員会にて報告の予定である。併せて、広報かまくら等に掲載し、周知を図る予定である。

（質問・意見）

朝比奈委員

公益財団法人常盤山文庫に関する文化財で、この他に指定されているものはあるか。

教育文化財部次長兼文化財課長

鎌倉市指定文化財はこの 1 点のみで、国指定文化財が何件かある。鎌倉市内に存する文化財は 600 件以上あったが、これらの解除によって 585 件となる。

（採決の結果、議案第 24 号は原案どおり可決された）

2 報告事項

(1) 課長等報告

行事予定

（令和 8 年（2026 年）2 月 2 日～令和 8 年（2026 年）3 月 31 日）

高橋教育長

次に日程の 2、報告事項（1）に入る。「行事予定」について、記載の行事予定で特に伝えたい行事等があれば報告願いたい。

（教育文化財部）

特になし

（質問・意見）

特になし

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

(2) その他報告

林委員

1月22日に鎌倉市学校保健大会に参加した。講演が青木福吉先生のとても良い話で勉強になった。印象に残った点について、いくつかお話したい。まず、鬼ごっこは1人で鬼になることで自立を学ぶ遊びであるという話が心に刺さった。また、学校のフリースペースでの指導についての話題もあり、「指導」の言葉の棲み分けをフリースペースでもした方が良くとも話をしていた。「指導」と言うと教えることが先に出るが、子ども自身がしたいと決めたことへのサポートすることを「指導」とするように意識を変えないとフリースペースの成果が出ないと話していた。この点については、自身も思っていたので非常に共感した。

次に、保護者と面談をする時、「お母さん」「お父さん」と呼んでしまうが、それよりもその人の名前を呼ぶと良いという話があった。個人情報なので下の名前を知ることができないため、「あなた」等と呼び、保護者自身と話していることを意識させると、本音が出ることもある。自身も学校で担任をしていた時、そのように話すと、保護者が親族との関係や子育ての話を涙ながらにした経験があったため、この話は今後の希望になると思った。

最後に、教育支援教室ひだまりに通う子どもたちの社会性が育っていることをとても嬉しく思った。講師が2度もその話をしていて、ひだまりが鎌倉の居場所であるということもおっしゃっていて更に嬉しく思った。

下平委員

先日、インクルーシブ教育シンポジウムに参加した。教育委員会の皆さんも総出で、本当に感謝申し上げる。キックオフという意味では素晴らしい会議であった。様々な関係者の方とも話ができた。参加しながら思いついたことを話したい。自身の小学校時代である60年ほど前は、子どもの数は1学級60人を超え、10クラス以上もあった。教員も現在以上に子ども全員に目が行き届かなかったと思うが、その頃も、特性のある子どもたちがそれぞれの特性を生かし、支え合っていて、トラブルも子どもたち同士で解決していた思い出が結構多く残っている。社会が便利になっていく反面、人間が孤立していく側面や、心が弱くなったり、貧しくなったりする側面がやはり起こってしまうのかなと感じた。今後も、このことについて考え続けていきたいと思う。教育委員会から、今回様々なテーマを投げかけ、より市民も含めて活動していこうという思いが参加者の中でも高まったように思われるため、引き続き取組みを進めていきたいと思う。

林委員

インクルーシブ教育シンポジウムは、自身も参加した。パネラーの話も非常に心に刺さった。

最後の鎌倉支援学校長の、少々厳しめの言葉が現場の教員たちに伝わったと思う。また、鎌倉のインクルーシブ教育は、枕詞に「障害の有無に関わらず」が必ず付く。これが障害にフォーカスしてしまうので、

今後はその中の「関わらず」の部分が市民や社会に伝わっていくと良いと思う。今後もシンポジウムを続けていくと思うが、「関わらず」については、学校や教員たちが困っていたり苦しんでいたっている部分であると思われるため、ぜひ伝えられたら良いと思っている。

教育文化財部長

委員お二人の話を聞いてそのとおりだと思うが、本当にモヤモヤしか残らないという感覚である。我々がまだ北極星が全く見えないところにいるというのを、逆に認識して、今後どう取り組んでいくか、真剣に考えていかなければならないと感じた。林委員からも話があったが、今後実際にどう持っていくかが重要であると思うため、考えながら取り組んでいきたい。

高橋教育長

インクルーシブ教育シンポジウム参加については、感謝申し上げたい。委員お二人からの指摘や教育文化財部長の発言もまさにそのとおりで、インクルーシブ教育とはこういうものでそれを達成すればインクルーシブになるといったわかりやすい話ではない。障害の有無だけでなく、国籍やルーツ、貧困、性的マイノリティ等であらゆる子どもを射程にしているものがインクルーシブ教育であると思っている。多様な子どもたちをいかに学校教育で包摂していけるかがテーマであり、範囲が広すぎて少しモヤモヤが高まったと感じる。今後はシンポジウムのテーマを通常学級におけるインクルーシブ教育等と設定をしていくことによって議論が深まると思う。1回目としては、そのような広がりがあることを皆で議論できたのは価値があることだと思った。自身の中での振り返りとしては、各パネラーの発言にもあったが、学校だけではなく、地域社会全体で考えなければならない話であった。学校の方は、教員たちや子どもたちもおそらく偏見がないので結構包摂できている。むしろ大人たちの社会や地域社会がインクルーシブという考え方をどれぐらい理解しているのか、できているかを我々も大人として振り返らなければならないと思った。そのため、シンポジウムは、学校関係者だけではなく、地域や保護者の皆さんと共有ができて非常に大きかった。こういった形でつながり合いながら北極星を目指していくことで良いのではないかな。北極星は確かに遠いが、一步は進んだと考えたい。

鎌倉市のスクールコラボファンドが一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォームから特別賞を受賞し、今朝の朝日新聞の教育面に大きく掲載されている。これまでの積み上げの成果であると思うし、担当のスタッフや現場で実際に探究的な学びを展開している先生方にも本当に感謝を申し上げたい。皆で受賞した賞である。取組もより促進していけると思う。

また、年末には炭火ファンミーティングを開催した。寄附した方々にAIドリルや探究的な学びといった鎌倉で展開している令和の学びを体験してもらい、またファンになってもらうというシステムが生まれてきたと感慨深く感じた。次年度に向けてよりこの枠組みを進化させ、現場にも活用いただけるように我々も汗をかきたいと思う。また、先生方の学びに使っていただきたいと1,000万円寄附をいただいたため、スクールコラボファンドと並行して、「先生の学び応援ファンド」を市議会2月定例会に議案として提案させていただく。スクールコラボファンドは、子どもたちや学校の探究学習をしたいという思いに柔軟に寄附を使って企業や大学とコラボレーションをしてきたが、今度は先生方が次の指導要領やまさに我々が目指している学習者中心の学びを実現するために力を磨くことに使っていきたいと考えている。スクールコラボファンドの兄弟分として高めていければ良いと思っている。

イベントに関連する話をする、市の政策創造課で実施している U-18 ビジネスプランコンテストの中学生高校生ビジネスプランのプレゼン大会では、非常に熱量の高さを感じた。中央図書館でもビブリオバトルという書評対決を実施している。参加者の気に入っている本を持参して、本のあらすじだけでなく、自身との関わり合いやおすすめポイント発表をし、質疑応答を行っていた。青少年課で実施した、放課後かまくらっ子未来ミーティングでは、放課後を子どもたち自身がどのようにより良いものにできたかを対話するワークショップを実施し、議論を行った。先ほどのインクルーシブの話題でも触れたが、学校だけで実施するのではなく、学校外でも鎌倉市役所内外の人たちも作る場で家庭、地域と連続性がある形で学習者中心の学びを実現しなければならないと改めて思った。

次年度に向けて、教育委員会が学びみらい部、こどもみらい部、教育文化財部の三部体制になるという予定である。所掌も広がって教育委員の皆様には負担をかけるところもあると思うが、子どもたちの放課後や育ちを、学校は一体で考えていかなければならないと思っている。鎌倉に通学したり居住している子どもたちには、私立、公立、高校、特別支援学校、幼稚園、保育園など様々な通学先があるが、それらを縦割りではなくシームレスにしていきたいのが自身の願いでもある。予算もかなり充実した内容になっている。長尾委員には鎌倉市全体の総合計画審議会委員に入っているが、唯一のリーディングプロジェクトとして子どもの育ち・学びを掲げている。我々も教育大綱の学習中心の学びやインクルーシブ教育とも軌を一にしていきたい。鎌倉でこれまで培ってきた良い視点だと思う。更に、先生や地域社会、保護者を応援したい気持ちである。

デフリンピックのバレーボール日本代表の高濱選手が鎌倉市の市民栄誉賞を受賞された。本当におめでたいことで、自身も表彰式に参加させていただいた。高濱選手は、日本代表はたくさん話をするチームだと言っていた。手話やアプリを使ってミスをした理由等をチームでたくさん話し合ってきたことが金メダルの秘訣であるとお話しされていた。我々もまた対話重視でつながりあって、一歩前に進んでいけたらと気持ちを新たにしたい。

防災教育について、先日、研修会として管理職の先生と防災担当が集まって、かなり的人数で午後いっぱい時間をかけて学び合いを行った。防災マニュアルを改訂していいものになった。東日本大震災により、宮城県石巻市の旧大川小学校では、津波の被害を受けて、子どもが 60~70 人ぐらい、教員が 11 人中 10 人亡くなった。ご遺族でもあり当時教員であった佐藤先生のお話をオンラインで聴く時間があり、我々も胸を打たれるものがあった。

災害がいつ来るか、明日が日常を迎えられるか分からない中で、マニュアルや防災訓練の形だけではなく、より実践的な防災訓練を行い、その日がきたら少しでも動けるようにしていかなければと思う。我々も我々なりに今まで準備してきたわけだが、一団となるという意識を高めていくことが重要であると考えている。

第一小学校が今後建替えに入るにあたり、地域の方や子どもたちも入ったワークショップを合計 3 回実施した。今後第一小はどうしていけばよいかについて、学校施設課が中心となって行っており、非常に素敵な会であった。いただいたアイディアを AI でまとめると、大きく三つの柱ができた。一つ目は学習者中心の学び、二つ目は防災、三つ目は地域との共生となり多世代が集まれる場所になればいいというものであった。

次年度は基本計画が開始されるが、また議論を深めていきたいと思っている。また、第一小学校の保護者の方々には、自身から説明を行う機会を年度内に作ることを考えている。

高橋教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって2月定例会を閉会する。